

毎年
9月23日は

手話言語の国際デー・手話の日



府
センター

～法人も京都から世界へ発信～



市
センター



いこいの
村

9月23日の「手話言語の国際デー」と「手話の日」に合わせ、京都府聴言センターと京都市聴言センター、いこいの村聴言センターから「手話は言語!」と賛同アピール。イメージカラーの青色で作成した立て看板や横断幕で、共生社会への願いを京都から世界へ届けました。

[P.4に関連記事](#)

INDEX

- P2 第2あおぞらリニューアル準備中 (法人事業本部)
- P3 インタビュー・府ネット高山委員長 (法人事業本部)
- P4 事業所だより (いこいの村／京都市)

- P5 事業所だより(京都府)
後援会だより、「法人後援会(サポーター)状況」
- P6 「リレーコラム」、「お知らせ」

新しい笑顔と出会いの場所

まもなく始まります！

～第2あおぞら就労支援事業所 再開に向けて～

来年1月、第2あおぞら就労支援事業所が
新たなかたちで再開します。

どんなことをすればなかまが楽しく豊かに
過ごせるのか、そして地域の方々にも還元で
きることはないかと考え、**3つの軸（知・
食・表現）**に沿って進めています。

知

まちライブラリーを開設
し、本を通じてなかまや地域
の方々がつながる場所にした
いと思っています。本を持ち

寄り、その本をきつ
かけに話し合ったり
学びあったりし、お
互いを知り関係を
作っていく。第2あ
おぞらが、なかまや
地域の方々が集い、
それぞれの世界を少
ずつ広げていける
場になればと思っ
ています。



食

カフェのメインは熱した石
でじっくり焼き上げる本格石
焼き芋とコーヒーです。テイ
クアウト
もできるようにし、セ
ンター利用者の皆さん、
地域の方々、関係団体
の皆さんが気軽に集ま
り、ほっと一息つきなが
ら語り合える場所にし
たいと考えています。



表現

ギャラリーとして作品展示
や、自分たちで作成したもの
を販売しま
す。自分を
表現できる場を作り、普
段の取り組みを皆さんに
見てもらう機会を多く作
ろうと思っています。



集う

関係者だけでなく、地域の
方々も集まってワイワイでき
ること、（発信＆広める）
ワークシヨップや体験を通してたくさんの人
に私たちの事業や取り組みを知ってもら
うことをテーマにしています。

最近なかまのAさんが、「来年1月、Bさ
ん、Cさんと一緒に第2あおぞらに行く」と
笑顔で何度も話しかけてくれます。お芋を
焼く話や、カフェの話をしたり、創作した
りし、再開に向けて一緒に取り組んでいます。
私たちが目指すものは、商品としての価
値だけではありません。日々の取り組みの
中で生まれる思いや、なかま・関係者・地
域の方々が集い、共に作り出す「コミュニ
ティ」を広げていくことだと考えています。
12月より、まちライブラリーの開設に本
の寄付を募ります。ぜひおすすめの本を
もってきていただけたらと思います。

（京都市聴覚言語障害センター

池内理英）



再開前の第2あおぞら

教えて、高山委員長！



「他人事」から「我が事」へ。今、私たちにできること。

京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク 委員長 高山 正紀 氏

レインボープランの歩み

当法人は、京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク（以下、府ネット）と共に、聴覚や言語に障害のある方の福祉向上を目指してきました。その道しるべが「レインボープラン」です。

歩みの原点は、当事者や家族の「地域で豊かに暮らしたい」という切実な声でした。全国に先駆けたこの村の建設運動など、安心して暮らせる場所を築いてきました。この歩みは「レインボープラン京都」から「新レインボープラン京都」、「レインボー3」へ、そして現在では次なる未来を見据えた新しいレインボープランの策定へと紡がれています。

これまでの歩みと、これからの展望について、府ネット委員長にお話を伺いました。



レインボー検討委員会での
高山委員長

「これまでの「レインボープラン」の歩みと課題について。」

高山委員長以下、高山…このプランは、聴覚や言語に障害のある方の暮らしを守るための「要望書」であり「活動の道しるべ」です。5年前に各団体が協同して「レインボー検討委員会」を立ち上げました。最初のプランでは文字量が多く難しいとの声があったため、法人任せにせず、自分たちの手で国の政策と各団体の要望をシンプルにまとめたものが「レインボー3」です。

発行後は各地で勉強会を重ねてきましたが、活動の成果をきちんと記録し、検証していく仕組みづくりがこれからの課題です。

「2027年3月に完成予定の新しいレインボープランの進め方とは。」

高山…今の福祉制度は変化が激しいため、10年先を見据えるのは困難です。そのため、今回は3年間の計画に絞り込み、制度の変化に素早く対応できるようにします。まずは各地域と各団体でこれ

までの達成度を振り返り、要望をまとめていきます。

「これからの活動で、最も大切なこと。」

高山…「人任せにせず、自分たちの地域は自分たちで変える」という主体性です。地域ごとに困りごとは違います。だからこそ、当事者や周りの人が自分の言葉で声を上げ、行政に働きかけていくことが大切です。新プラン完成後は、行政としっかり対話できるよう、法人とも協力してみんなで学び合う場を作っていきます。

「最後に、読者へのメッセージをお願いします。」

高山…委員長を務めて13年目です。この新プランを軌道に乗せたら、2年後には若い世代へバトンを繋げる覚悟です。みんなが一つになって主体的に動く勢いを持って、新しい時代を切り拓いていきましょう。

新しいレインボープランと法人の「第5次短中期計画」

法人でも、新しいレインボープランを前提に、「第5次短中期計画」の原案作成を進めています。「情報提供」、「障害福祉」、「高齢福祉」の各分野ではたらく職員による法人内チームと、現場の職員が気づきを出し合いながら、利用者と関係者の「ねがい」を形にしていきます。

友達がいるから 元気でいられる！

梅の木寮で元気に100歳を迎えられた古賀さん！

大正15年、滋賀県で出生。聾学校卒業後、着物の仕事に長年従事され、ろうあ運動にも積極的に参加されました。50歳で



若かりし頃の古賀さん

ご主人を亡くされた後も、手話で話せる多くの友人に囲まれて過ごしてこられました。しかし加齢とともに車いす生活となり、家で一人で過ごす時間が増えていきました。

支援者の勧めで、梅の木寮の短期入所を利用開始。友人に会えることを楽しみに通い続けられました。ところがコロナ禍に入院。面会も叶わず意思疎通が難しい中で非常に弱られ、「友達がいるいこいの村で過ごしたい」とのご本人の希望で、94歳で梅の木寮に入所されました。

入所後は見違えるように元気を取り戻され、100歳を迎えられた今もお変わりありません。穏や



敬老お祝い会での古賀さん



お花見で友達に囲まれて

かな古賀さんの周りには自然と人が集まります。「友達と話すごのが毎日の楽しみ」と話す古賀さん。何歳になっても好奇心を持ち続け、楽しめる姿勢こそが元気の秘訣なのだと思います。お誕生月にはご友人と、大好物の鰻を食べに出かけられました。来年の101歳のお誕生日にも、また鰻を食べに行きましようね。

(施設第二福祉部 四方由紀)

京都市 聴言センター

手を大きく振って届けた 私たちのメッセージ

「しゅわっ都DAY

～おいでやす、手話の広場へ～」に出演！



京都市役所前のステージから

9月23日に京都市役所広場で開催された「手話の啓発イベント」に、舞台発表の立場で出演させていただくことになりました。

オープニングで障害者支援施設「若木寮」発表の和太鼓が鳴り響き、来場者も足を止め、ステージに注目されていました。続いて、京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」の子どもの発表。「にじ」の紹介と手話でのコミュニケーションに対する思いを、一人ひとりが真剣なまなざしで手を大きく振りながら伝えるその姿に、来場者も引き込まれるかのように見入っていました。ある参加者から、「思いを伝えたい」「社会とつながりたい」という素直な気持ちが、子どもたちから伝わってきた。」という声をいただきました。

「手話の日」は、手話が言語として位置づけられるまでの歩みと、聴覚障害者の言語的権利を求める歴史を振り返る機会です。その意義が市民の皆さんに広まっていくように今後も発信していきます。

(京都市聴覚言語障害センター 加藤恵)



手話を通して地域の人たちと交流していることを発表



白熱の卓球バレー

仲間の一步と笑顔を応援する 多様な取り組み

～障害者支援センター「みなみかぜ」～

2015年に城陽市に開所した「みなみかぜ」では、利用者一人ひとりに寄り添う日中支援を行っています。利用者の平均年齢は75歳で高齢化の課題に向き合いながらも、毎日「できること」をみんなで探しています。

利用者の願いを 大切にした活動

開所10周年を機に利用者の「声」を聞こうと「利用者ミーティング」を始めました。回を重ねる中で、様々な願いが寄せられるようになり、「畑仕事がしたい」という声から始まった野菜作りでは、ナスやトマトなどを育てています。収穫の喜びを味わい、自ら販売し、誰かに喜んでもらえる嬉しさを分かち合っています。その結果、意欲が高まり、通所を楽しみにする利用者が増えています。人気の「卓球バレー」では「月に2回では足りない」との声にこたえ、月3回に増やしました。体を動か

す楽しさや試合の面白さを感じながら、利用者同士の交流も深まっています。

願いを支える 職員の工夫

新企画「モルック」は本来の木製ではなく、高齢の利用者が安全に楽しめるよう職員が手作りで工夫し、誰もが安心して参加できる活動にしています。「みなみかぜ映画館」では、聞こえや理解の仕方の違いに配慮しながら、作品選びにも工夫を重ねるなど、みんなで楽しめる環境づくりをめざしています。

安心して通える 居場所

「利用者ミーティング」において、「仕事を続けた」「手話のある環境で楽しく過ごしたい」「旅行に行きたい」と様々な願いが出てきました。利用者の意見を中心にした内容へ見直



盲ろうの利用者さんとモルックに挑戦



すことで、利用者自身に参加したいと思える取り組みへと変わってきました。

山城地域で生活支援事業の実施をしてほしいという地域や関係団体の願いのもと「みなみかぜ」は開所しました。今の「みなみかぜ」の強みは、利用者の願いを大切にしながら、職員やボランティアが協力してその実現を支えていることです。これからも丁寧に寄り添い、安心して通える居場所づくりを続けていきます。

(施設福祉部 佐藤美代)

後援会だより

法人後援会(サポーター)登録のお願い



いつも温かいご支援をいただきありがとうございます。新システムへの移行に伴い、これまでの「後援会会員」のみならず、今後は「サポーター」として新しくご登録が必要です。2025年度の約700名から、9月末現在158名です。裏面のQRコードからぜひご登録をお願いいたします！「むずかしい」「やり方が分からない」方は、お近くの聴言センター受付で登録できますので、お気軽にお越しください。



私は京都市聴覚言語障害センターを利用することが多いです。コロナ禍や空調設備工事による市聴言センターの休館中は不便で寂しい思いをしましたが、後援会の登録は自身の活動を支えることになると気づきました。みなさんの力を繋ぎ、楽しく、元気にサポート仲間を増やしていきたいと思います！

(法人後援会 幹事 真嶋 美幸)

法人後援会(サポーター)状況

(2026年4月1日～9月30日)

目標サポーター数 **800名**

サポーター数 **158名** 応援口 **203口**

項目	口数	金額
1) 2026年法人が実施する事業を応援	131口	304,500円
2) 外国人職員のためのいきいきの村職員住宅の改修	72口	127,800円



70周年の節目に

私が所属する京都府聴覚障害者協会（旧 京都府ろうあ協会）は、1956年に社団法人となってから2026年で70周年を迎えました。9月に開催した70周年記念事業は、京都府手話サークル連絡会と京都手話通訳問題研究会の創立50周年も兼ねた事業でした。私は実行委員として写真展や大会誌の準備を通し、協会の歴史を学ぶ機会に恵まれました。

準備のなかで、法人認可の年の会報に、伊東雋祐先生の寄稿文「立場ということ」が目にとまりました。「法人になったからといっても、会員であるみなさんの強い団結と自覚がなかったら、その発展と向上は望む事が出来ません（中略）きこえないからこそ、こんなよい事も出来、こんな考えも持つ事が出来るのだと喜べるような、そんな自覚をもった人になってほしい」この言葉は、70年後の今を生きる私たちろう者にも

語りかけているようでした。

また、大会誌のあいさつ文を確認していた際、歴史的なできごとである「第1回全国ろうあ青年研究討論会」が「法人認可10周年を記念して開催された」と書かれていました。私は「全日本ろうあ連盟が主催したのでは？」と疑問に思い、指摘したのですが、ほかの委員が当時の『日本聴力障害新聞』のトップ記事を見せてくれました。そこには、実は我が協会が法人認可10周年の付帯事業として主催したことが記されており、当時の先輩方の熱量を感じるとともに、自分の勉強不足を痛感しました。

私は今期から理事を務めることになりました。まずは聴言法人の事業や会計（20億円規模）をしっかりと理解できるようになることが今の目標です。よろしく

お願いいたします。
理事 河井 友佳



法人後援会サポーター になりませんか

応援プラン①

外国人職員のための
いこいの村職員住宅改修支援



応援プラン②

2026年度
法人が実施する事業を応援



あなたの声が
聴言ニュース
を作る！
アンケートのお願い

アンケートフォーム



第8回
京都府

耳のこトフェスタ

「きこえ」について考えてみませんか？

- 日時** 2026年12月20日(日) 10:30～15:00
会場 京都先端科学大学 太秦キャンパス北館4階
京都市右京区山ノ内五反田町18
講演 人生100年時代の“きこえ”を守る
ーイヤホン難聴から加齢性難聴まで
耳鼻咽喉科ひょうごクリニック院長
兵庫 美砂子先生
トーク VRを使った新しい聞こえの
リハビリテーションのご紹介
群馬大学医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授
茂木 雅臣先生
その他 聴力測定・機器体験ブース
飲食交流ほか



参加費 無料 申込み不要

手話通訳、文字情報あり



くわしくは
こちらから



社会福祉法人
京都聴覚言語障害者福祉協会
法人事業本部 TEL(直通) (0774) 30-9003
京都府聴覚言語障害センター
TEL(0774) 30-9000(代) FAX(0774) 55-7708

京都市聴覚言語障害センター
TEL(075) 841-8336(代) FAX(075) 841-8311
いこいの村聴覚言語障害センター
TEL(0773) 46-0101(代) FAX(0773) 46-0610



ホームページ
はこちら

詳しくは各事業所、またはホームページで <https://www.kyoto-chogen.or.jp/>